

話心

第16回



先日、福岡に住む長女の就職が何とか決まり、これからどんな風景の中で過ごすのだろうかと思いながら挨拶に伺った。カメラマンなんていう少々特殊な仕事を本当にやって行けるのか親としては少々不安だが、スタッフの方々の素敵な笑顔を見て、我が娘ながら良い会社を選んだなあと思った。

自分の最初の就職を思い出してみる。直接は会った事もない人の紹介で決めた東京・池袋のレストラン、高校に提出する採用通知が必要だと連絡したら、手書きで「採用します」と社名と日付だけ書かれた便箋が一枚郵送されてきた。それにしても、一体どれくらい職場を転々としてきたことか…。池袋のレストラン、島原の観光ホテルの厨房、梅田のパスタ屋、甲子園近くのフランス料理屋、堺のエアコン工場、居酒屋、大阪南港の倉庫、それからカナダに渡ってまた居酒屋、大学の学生食堂、飲み屋、帰国して魚屋さん、自分で商売も

多けりやいいってもんでも…

したし、ドアの製作会社の設計室でサラリーマンもやった、単発だと結婚披露宴の司会のアシスタントや中国人に混じって時給4カナダ\$ (四百円位) でカナダ産松茸磨きなんてバイトもしたな…。先月号で書いたコンビニのバイトみたいな不義理をしたのも入れたらもつとたくさんあるだろう。改めて思い出してみても、当時如何に世間やら仕事というものをナメていた上に根気が無かったかと恥ずかしくなる。自分のことを棚に上げて大変申し訳ないが、我が子には同じ轍を踏んで欲しくないと心から願う。

バンクーバー・ダウンタウンの飲み屋でバイトしている時、日本から出張で来た年配のサラリーマンが来店した。

「最近、日本はどんな感じなんですか？」

「今、日本は大変だよ〜キミイ〜」

「え？何が大変なんですか？」

「大変だよ〜、バルブが弾けてねえ〜」

「へえ〜…バルブがですかあ〜…」
帰国するまでずっと高圧ガス工場の事故が何かと思っていた。



住職 松竹正純さん=文
(まつたけしょうじゆん)

- 昭和44年 大阪府堺市生まれ
- 大黒山徳性寺住職 (雲仙市)
- 23歳で、北米大陸をオートバイで縦断。
- 様々な職業を経て、28歳で出家得度。